

①堀割・五反田周辺地区 防災集団移転促進事業

受賞機関 茨城県大洗町
国土交通省 関東地方整備局 常陸河川国道事務所

キーワード 流域治水、治水と防災まちづくりの一体的推進、
那珂川緊急治水対策プロジェクト

全建賞審査委員会の評価ポイント

令和元年東日本台風の被害を受け、具体的な移転手法が未確定の状況下で、国（河川管理者）等と連携し、地域住民と協力して、全国初となる既成市街地への差し込み型防災集団移転の具体的な移転手法を策定した事業。この取組は、地域の特性やニーズに応じた実効性の高い手法を追求し、防災対策の新たなモデルケースとなった点が評価された。

1. はじめに

茨城県大洗町を流れる溜沼川は、那珂川水系の支流である。これまで溜沼川沿いの大洗町堀割・五反田周辺地区では、昭和61年、平成10年、平成23年、令和元年東日本台風等、度重なる浸水被害に見舞われてきた。特に令和元年東日本台風では、約100棟の住宅が浸水する被害が発生した。

この地域では、防災対策が急務であるが、従来の堤防整備は時間やコストの問題に加え、移転に伴う地域コミュニティの衰退が懸念された。そのため、大洗町は防災集団移転促進事業（以下「防集事業」という。）の検討を開始したが、移転先の確保、事業計画策定や予算の問題等の課題に直面した。

これらの課題を解決するため、大洗町は独立行政法人都市再生機構の技術支援を受け、国（河川管理者：常陸河川国道事務所）との連携により、事前防災としては全国初となる「市街地における差し込み型による防集事業」を検討し、地域の特性を活かした防災まちづくりを進めることとした。



令和元年東日本台風浸水状況

2. 事業の概要

令和2年1月、流域内の関係機関により「那珂川緊急治水対策プロジェクト」が発表され、大洗町堀割・五反田周辺地区は「土地利用・住まい方の工夫の検討」とし

て位置づけられた。大洗町は、地域住民が主体的に防災まちづくりに関わることを促すため、意見交換会、個別相談や防災まちづくりニュースの発信等の活動を展開した。

その結果、地域の総意として防集事業による安全な場所への移転が決定し、令和5年12月には災害危険区域の指定が行われた。本事業の特徴は、既成市街地の空き地・空き家を移転先として活用する「差し込み型防集事業」であり、新たな住宅団地開発を不要とし、地域の空き地・空き家対策も兼ねた防災まちづくりを目指している。

3. 事業の成果

本事業の特筆すべき点は、従来の行政主導型ではなく、地域住民が主体となり、関係者と協力して地域の将来像を考えた点である。意見交換会やワークショップ（WS）を重ね、地域全体で防災まちづくりを議論し、地域住民の総意として防集事業の実施を決定した。

「差し込み型防集事業」を採用し、コンパクトシティ化を促進した。移転先は小学校の通学エリアを考慮して選定し、生活環境の変化を最小限に抑えることで、次世代につながるコミュニティ形成を図った。



令和6年6月27日「みんなで考える防災まちづくり」(WS)

4. おわりに

令和6年6月、事業計画が国土交通大臣の同意を得て、具体的な事業を開始した。今後も、大洗町・独立行政法人都市再生機構・常陸河川国道事務所の三者が連携しながら、地域の安全確保と活性化を目指した取組を継続していく必要がある。

令和6年7月には、三者が一堂に会し、事業の進捗状況を確認するとともに、今後の協力体制を再確認した。住民と行政が一体となり、持続可能な防災まちづくりを推進することで、地域の未来に向けた施策の充実が期待される。

②地域住民、関係機関が連携した石神井川の整備 ～人々が集い、自然とふれあえる空間の創出～

受賞機関 東京都 第四建設事務所
東京都 西部住宅建設事務所

キーワード 都営アパートの建替え事業、川づくり懇談会、緩傾斜護岸、良好な水辺空間

全建賞審査委員会の評価ポイント

石神井川沿いに建ち並ぶ都営アパートの建替え事業に伴い、創出されたオープンスペースを河川と一体的に整備。関係機関や地域住民で構成される「川づくり懇談会」で取りまとめた整備方針に基づき、「人々が集い、自然とふれあえる良好な水辺空間」を整備。河川の自然営力も活かし、生態系を身近に感じられる空間整備がなされ、計画段階から住民が参画し、意向調査を実施するなど、地域との一体的な取組などが評価された。

1. はじめに

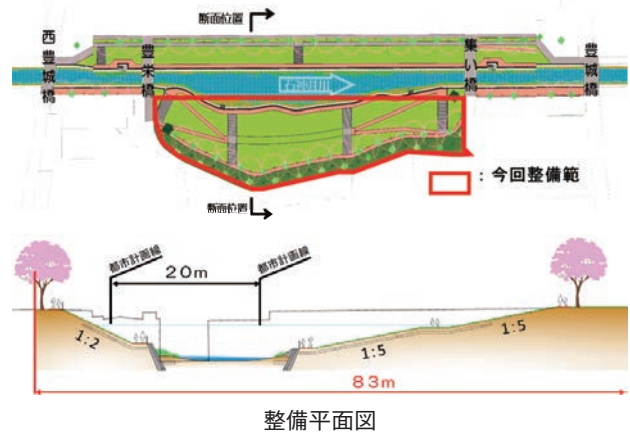
石神井川は、東京都小平市を源とし、東京都北部を東へ流れ、隅田川に合流する延長25.2kmの一級河川である。河川は東京の都市部における貴重なオープンスペースであるため、治水機能に加え、良好な水辺空間としての役割が求められている。そのため、護岸改修に併せて、親水護岸や川沿いの遊歩道となる河川管理用通路の整備、植栽による緑化など、人々が水辺に親しめる環境整備を進めている。

2. 事業の概要

石神井川の upstream 端から 7km 付近、練馬区内の豊城橋から西豊城橋までの約 500m の区間で、都営上石神井アパートの建替えと連携し緩傾斜護岸を整備した。

当初の計画では、石神井川沿いに建つ低層階の既存アパートを、建替えに伴い高層化し、創出されたスペースを公園として整備する予定であった。そこで、川沿いの立地を活かし、水辺と一体となった空間づくりが可能と考え、親水性や景観に配慮したより良い空間づくりを目指して、地域住民、学識経験者、行政機関等をメンバーとした「石神井川上石神井アパート付近の川づくり懇談会」を立ち上げた。

懇談会では、参加者の忌憚のない意見を引き出すため、お互いに顔を見ながら発言できる座席配置にするなど、誰もが対等に発言しやすい雰囲気づくりに努めた。特に議論が深まったのは、親水性と安全性の両立であった。水辺に近づける構造は、川への転落や増水時の避難などの課題も併せ持っていることから、緩傾斜構造や転落防止柵の設置などについて、活発な議論を重ねることで合意形成を進め、整備方針や基本デザインを取りまとめた。



整備後

3. 事業の成果

懇談会で決まった整備方針に基づき、平成30年度から工事に着手した。台風による倒木や冠水などのトラブルにも対応しながら、令和4年12月に工事が竣工し、令和5年2月に一般開放された。

現在では、保育園児の遊び場や地域住民の憩いの場として活用されるほか、カワセミやコサギなどの野鳥も頻繁に確認されるなど、自然との調和が見られる水辺空間となっている。

4. おわりに

本事業は、河川整備と都営アパート建替えを連携させ、地域住民の意見を反映した水辺空間の創出を行った優れた事例といえる。今後も、地域と行政が協力しながら、魅力ある都市空間の形成を目指していく。

③ サポート高松地区都市再生整備事業 ～人が安全で快適に歩ける都市空間づくり～

キーワード プロムナード、にぎわい創出、ウォークアブル、都市空間、香川県立アリーナ、港湾緑地、歩行者空間、道路空間の再配置

全建賞審査委員会の評価ポイント

官民による施設整備と並行し、歩行者優先のまちづくりや港湾緑地の整備を進めた。道路空間の再配分による歩行者優先のまちづくりを進めた点、港湾事業と連携して「サポート高松地区」の活性化を実現した点、さらに香川県立アリーナの開館に合わせた道路整備により、回遊性や景観の向上を図った点が評価された。

1. はじめに

サポート高松地区は、高松市の沿岸部に位置する広域交流拠点である。平成16年3月にグランドオープンし、高度な都市機能とコンベンション機能の導入等を目的として整備された。また、JR、私鉄、路線バス、高速バスや航路などが集結する県内最大の交通結節点でもある。当該地区では、香川県立アリーナ、大学、駅ビルや外資系最高級ホテルといった官民による施設整備が進んでいる。行政としては、この機会を活かし、更なるにぎわい創出に取り組んでいる。



サポート高松地区

2. 事業の概要

歩行者優先のまちづくりを進め、歩行者や滞在者を増やすとともに、本エリアが一体となつてにぎわい空間を創出し、サポート高松地区の価値の向上を目指した。そのため、道路空間を再配分し、プロムナード化した。滞在したくなる空間を形成するため、植栽ベンチの設置やデザイン性のあるインターロッキングブロックの配置など、道路空間の質の向上を図った。

また、近接する港湾エリアにおいて、港湾緑地等の整備を連携して実施することで、更なる魅力の向上及び観光客の受け入れ態勢の強化を図った。これにより、サポート高松地区全体のにぎわい創出、来訪者の満足度の向上が期待される。

受賞機関 香川県 土木部 都市計画課
香川県 土木部 高松土木事務所 都市港湾課
高松市 都市整備局 都市計画課
香川県 土木部 港湾課

▼整備前



▼整備後（平日終日、土日休日の午前9時～午後9時以外）



▼整備後（土日休日の午前9時～午後9時）



道路空間の再編整備内容（高松駅北側道路）

3. 事業の成果

香川県立アリーナが開館する令和7年2月24日にプロムナードとして運用を開始した。土日や休日には、様々なイベントが開催され、活気ある様子が見られる。



にぎわうプロムナード（高松駅北側道路）

4. おわりに

令和7年度は、サポート高松地区周辺において、瀬戸内の島々を舞台に、3年に一度開催される現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2025」が開催される。国内外から多くの来場者が見込まれており、当該地区がにぎわい創出や憩いの場として活用され、一層の地域活性化が期待される。